

第4回 むつ下北私たちのまちづくりフォーラム

とりまとめ

魅力あるまちづくり ～居心地のいい街をどうつくる？～

H.29.7.15. (土)

パネリスト

宮下宗一郎むつ市長

伊藤一哉氏 (国土交通省東北運輸局観光部次長)

手塚貴晴氏 (建築家 東京都市大学教授)

松浦良博氏 (松浦一級建築設計事務所代表)

吉田ゆかり氏 (市民協働まちづくりコーディネーター)

コーディネーター

今井晴彦氏 (都市計画・まちづくり専門家 株式会社サンプランナーズ代表)

スケジュール

14:05 パネルディスカッション

14:50 休憩

15:00 パネルディスカッション

15:50 質疑応答

16:10 終了

パネルディスカッション

・今井氏

「まちづくり+計画」が吸引力を高める。

街並・景色がいい

食べ物・酒うまい

歴史文化遺産がある。

街に個性があること

以上がアンケートダントツ上位。

街の活性化には、街並みや景色をよくすること

住む人と訪れるとでは感じる魅力が違うことを認識。両方を一緒にして魅力あるまちとなる。

今回は両方の話をしていく (共通するところもある)

・国土交通省伊藤氏

日本を元気にする地域の力～観光が変える地域の姿 輝く未来～

- ・会津若松市七日町の紹介
- ・秋田県の秋田犬を題材にしたポスターや動画を発信し、ヒットした事例

・都市政策課の発表

居心地のいい都市公園を。

今まで公園利用の規制厳しかった。

これからは ①よりストック効果を高める

②民間との連携を加速する（公共の視点だけで進めない）

③都市公園を一層柔軟に使いこなす

画一的管理や同じような施設のみ、ということをやめる。公園のポテンシャルを柔軟な考えで高める。

都市公園法が改正→民間事業者による公園の魅力向上と公園整備（Park-PFI）ができるようになった。

条件：公園施設の整備を民間施設整備と一緒にすること。（収益施設と公共部分を一緒に整備）

むつ市で検討中の公園

①金谷公園

公共施設の整備とともに民間の収益施設を整備。

②おおみなと臨海公園

克雪ドームと体育館の間に広場の整備。ここで P-PFI を考えている

③代官山公園

田名部まちなか再生の中で代官山での P-PFI の活用も考えられる。

・手塚氏

よしの保育園の紹介。

新潟県十日町の建物リノベ事例紹介（庇に人が集まる。どこからでも入れるようにした。解放されていると人が集まってきていろんなことをする。にぎわいが自然と生まれる。市が枠組みを作って民間が活用。

氷見の紹介（何でも集める。人が集まる）

・松浦氏

A's デザインアワード住宅建築部門で銀賞導賞受賞した話

・吉田氏

魅力ある街

- ・職場と家庭以外の居場所が見つけられる街
- ・よそ者若者馬鹿者ウェルカム文化
- ・居場所があって仲間がいる
- ・楽しいと思うことを見つけれられる街

- ・学びの場所活躍できるフィールドがある街
- ・子育て中のお母さん、高齢者、障害者が立ち寄って休憩できる場所がある街
- ・街と人が共に育って行ける街

・手塚氏

雪や、厄介だと思われているものもやり方を変えると重要な資源となる。

・市長

訪れてくれる人に対する魅力→ジオパークとして PR

市民に対する魅力→公園に着目して新しい都市空間を P-PFI で作っているようにしている。

・松浦氏

むつの魅力は人の好き。人を受け入れやすい地域。

贈与の文化まだある。物々交換している。

人の良さを生かせるような居住スペース作りができれば。

・吉田氏

下北での三度泣き。

辺鄙なところに来て泣く

人の人情に触れて泣く

離れるときに泣く

自然豊か 森があり、海もある。スキーもできる。人も良い。

海山の恵、これがよい。

・今井氏

住み着く人も多い。景観もいい。夜景もいい。海産物おいしいし、風景もいい。

・手塚氏

人が入っていいところがたくさんある。

いろんな人が自由に参加できる空間があればよい。

P-PFI の話、なかなか大変。公園の周りの人に使わせるのが一番簡単。

公共では公平に使われているかどうか重要になるが、そうではない。どうやったらわかりやすい方向にできるか。

大事なのは、人とのつながりができてくるとよい。みんなの公園は誰のものでもない公園となってしまう。

高齢者の公園とか、誰かに占有させることをするとよい。

・市長

まちづくりにおいて市はまずマクロから考える。

街全体をどうするか。

市街地をこれ以上広げない→特定用途制限地域をかけた。

居住エリア、公園、商業地をうまく集積して歩いて暮らせる街→立地適正化計画。

自然を守ることが必要→居住調整地域をかける。

次にミクロに考える。

体育館とドームの間の空間をどうするかと考えることを進めていく。

(P-PFI) 利用者が利用する施設ができると思っている。

体育館ではスマートアベニューという考え方→スポーツをやるだけではなく、見ること、防災利用などもある。こういうことを考えていく。

むつ市のいいところは何か、から考えていくことが必要。

手塚先生は軒を作ると人が集まると言った。

ペットのドッグランなどもいいかもしれない。

新しい価値の提案をしたい。意見を聞いていきたい。

市民の夢が凝縮されるものを作っていきたい。

むつ市のまちづくりもミクロまで来ている。

行政だけではどうにもならないところある。皆の力を借りて新しい考え、新しい価値を見出していきたい。

・今井氏

公園などは今まで機能的で縦割りに作られてきた。

世界中でプレースメイキングといって、公共施設を魅力的に変えようという動き有。今までのことを見つめ直す、という動き。

・松浦氏

マルシェは非常に良い。魅力ある。

下北は宝の山。小さなところから価値を見出せるような空間を作ることがよいのでは。自分たちの考える小さな価値を集められれば良い(マルシェも)。下北の海は美しい。まちづくりに生かせれば。豪華客船が入港できればよい。

・今井氏

あるだけでは魅力にならない。どう使うか、どこかで磨きをかけること。

原石を宝石に変えること必要

・吉田氏

資源発掘のためにやっているのはまちあるき。

キハ動態保存運転会がある旧大畑駅周辺を歩くと寺や神社が多くあり面白い。

大湊駅から安渡館まで歩き、金物屋や豆腐屋と交流。

街を歩くと宝物が多く見つかること実感。町の人との交流もできる。知らないことも利くことができる。

ストーリー性がわかり、それを発信していくこと、一人一人がアクション

を起こす。できることをやっていく、これが磨くことにつながっていくのではないか。

・伊藤氏

七日町の渋川氏は、20年ぶりに実家に帰省したらシャッター通りとなっていたが、歴史的建造物があったので、それを息子と商店街の人の3人でまちづくりを始めた。七日町通り街並み協議会を立ち上げ、徐々に大きくして行政の後押しもあって大正ロマン調の街並みにした。

必ずリーダーシップ的な人がいる。

・手塚氏

いい街の共通点は、歩ける街であること。

むつ市は歩けない。タクシーを逃すと歩いていけない。

どうしたらいいか

- ・道に車が止まれるようにすること
- ・街をきれいにしない（いかにはみ出すか）
- ・自転車の活用（活動範囲広がった）

この3つをやればいいことがあると思う。

・今井氏

健康に良い。町全体が健康にしていくというのは魅力になるのではないか。

・松浦氏

自転車に乗っていれば景色が合わる。自転車でいろいろなことができるのはいいと思う。ポイントになる。

・吉田氏

歩くと魅力が見つかる。車で通りすぎるのとは違って、歩いたり自転車で移動することで宝の山となる。時間がかかるが歩いた方がよい。街歩きをしてほしい。

・今井氏

都市観光、まちなか観光、全国街歩く観光が増えている。自分のまちがさらに好きになる。

観光の魅力として、ジオパークもあるが。

・市長

訪問者に対して歩ける街と住んでいる人が歩ける街は違う視点で語るべき。

下北ロングライドを明日行う。地域を回ってもらいながら楽しんでもらう。こういうことも切り口として始めている。

建物が街を変える大きなきっかけになるのではないか。市が街を変えるのに建物を建てようとするが、建築家の人は建物でどう街を変えるか、と考える。

一つの建物、公共空間が与えるインパクトは大きい。

街は魅力にあふれている。気付いてないだけ。

よそ者は違う視点を持っている者。

馬鹿者は行動する者。

必要である。

また、花咲か大作戦や、様々な行動の中で、市民協働ということで、みなと共に活動し、魅力を高めていきたい。

質疑応答

大畑の人

大畑のさくらロードの桜は、観光バスが来るということで去年中央部分の枝を切った。去年は咲いたが今年は咲かなかった。むつで花咲か大作戦をするが、大畑は入っていなかった。もっと広い地域で考えてもらえないか。

もう一つ、歴史の話でたが、大畑の中心街は 400 年前からきちんと整地されて造られた商店街。今、空地ができていますが、見るとうなぎの寝床と同じ造り。何とか生かせないか。

市長

県には大畑さくらロードにつきしっかり咲かせてほしいとお願いしている。

商店街の昔ながらのウナギの寝床の話も、歴史景観の形成。人の思い出に残る文化。

大畑の人を巻き込んで、発信する機会を設けてもらいたいと思う。

今井氏：皆が街にいることを考えることが必要。皆でやっていきましょう。